

# SDGs への取り組み:地域マネジメント学科

<b>目標</b>	経営学、経済学、政策学といった学術領域を組み合わせ、複合的な教育研究の展開を基盤に、持続可能な地域社会づくり、地域に根差したビジネスのあり方や行政・まちづくりの活動といった様々な経験や学習機会を創出・提供することで、SDGsの目標達成に貢献してまいります。
<b>授業での取組事例①</b>	<p>「私のふるさと」をテーマに現代社会の構造的問題を考える                  (担当教員) 伊藤裕顕 准教授 (科目名) 基礎ゼミナール (実施時期) 令和5年10月～令和6年1月</p> <p>【教育目標】                  地域課題をSDGsの視点で見つめ、抽出することで、多角的な視野の獲得につなげ、解決策の提示までを含めた発展的な思考様式を身につけることを目指す。</p> <p>【実施概要】                  年間テーマである「私のふるさと」に則したレポート作成、プレゼンテーション実践の過程で、SDGsの視点から地元自治体(ふるさと)の課題を探り、解決策を導き出す。特に、日本では見逃されがちな「貧困」や「飢餓」の視点に重点を置くよう指導している。</p> <p>【学習効果】                  SDGsを学習することで、日本の現代社会に潜在する構造的問題の認識に結びつけることを期待している。</p> 
<b>授業での取組事例②</b>	<p>持続可能な経営組織の理論と実践:SDGsの理念を踏まえ                  (担当教員) 遠藤哲哉 教授 (科目名) 経営組織論 (実施時期) 令和6年4月～令和6年7月</p> <p>【教育目標】                  優れた経営組織について、理念・哲学、リーダーシップ、システム、組織・人材戦略、内発的モチベーション、学習する組織文化など、様々な側面からアプローチし、持続可能な経営組織の理解を深める。その中には、SDGsの理念と哲学を踏まえ、いかに社会の中に実装していけるかという視点からの考察が含まれる。</p> <p>【実施概要】                  理論と実践の融合を図り、SDGsの考え方、方法を踏まえ、優れた経営組織のあり方について、その基本を学ぶ。テキストは、SDGsのコアになる思想を踏まえたものを使用した。授業形態は、基本的な内容を講義形式で行なった後、ケーススタディを行い、グループディスカッションを取り入れ、学生参加型の授業構成とした。</p> <p>【学習効果】                  SDGsの思想をベースにした経営組織論の理論とケーススタディ、グループディスカッションを繰り返すことで、社会的価値の重要性に気づき、持続可能な経営組織のあり方について、深めることができた。</p> 
<b>研究での取組事例</b>	<p>福島的生活と地域資源の持続的保存活用を考える                  (担当教員) 黒石いずみ 教授 (連携先) 福島建築士会 (実施時期) 令和4年～現在</p> <p>【研究目標】                  福島県内の恩賜郷倉の調査、荒川などの水資源の調査と研究を行い、地域の歴史遺産と自然遺産を未来に生かす活動を行う。</p> <p>【研究概要】                  1934年ごろから東北で4000件建設された恩賜郷倉の調査による地域の相互扶助の仕組みの研究や、荒川を中心とした河川の水資源が、農業や観光、自然の循環再生に役立つ様子を研究する。自然資源と人々の助け合いの仕組みや、長い間に育てられてきた生活空間資源が、地域の生活を支え、東日本大震災後の風評被害や社会の少子高齢化に負けない、これからの持続的発展のあり方がどのように可能かを、幅広い視点から考える。</p> <p>【研究成果】                  ‘Making a Community Around a Table: Reconstruction of Mutual Help System by Tea Parties(Ocha-kai) and Lunch Parties After the Great Eastern Japan Earthquake’, <i>Community Responses to Disasters in the Pacific Rim: Place making in Displacement</i>, edited by Shu-Mei Huang and Elizabeth Maly, Routledge, 2023. pp190-206                  ‘The Quest for Well-being in Japanese dwellings from late nineteenth century to Covid-19’, <i>Interiors in the Era of Covid-19: Interior Design between the Public and Private Realms</i>, edited by Penny Sparke, Ersi Ioannidou, Pat Kirkham, Bloomsbury, 2023, Feb, pp47-59</p> 

学生の取組事例

地域情報を発信する取り組みを通して「住み続けられるまちづくり」を考える

(活動団体) 桑折町商工会「地域の情報発信」プロジェクトメンバー (担当教員) 田川寛之 助教  
(活動時期) 令和6年4月～

【活動目標】

桑折町商工会との協働により、その地域社会に固有の価値を探索・発見・発信する活動を通じて、持続可能な社会や経済の在り方、そのための地域のプレイヤーの役割を知ることにより、持続可能な地域社会づくりに参画するための汎用的な基礎能力(プレイヤーとの関わり、計画・実行・評価という事業プロセスの経験)を養うことを目標とする。

【活動概要】

学生自らが桑折町の魅力を探索し、取材、コンテンツ化、発信までを主体的に行う。先行する発信媒体ともつながり、相乗効果が高まる取り組みを試みる。そして、その情報発信の効果について検証し、今後の、より効果的な情報発信の在り方を学生なりに考えて、報告書にまとめ、報告会を催すことを目指している。

【成果】

現在、学生が取材やコンテンツ作りを行っている。それら作業と並行して、近日中(24年10月)に、インターネット上に情報発信用のSNSアカウントを作成、発信活動を開始する。同時に、その効果も検証してゆくこととなる。

